



ブルネイ・ダルサラーム大学

Universiti Brunei Darussalam



●学部学生 約3,000人 ●大学院生 約770人 ●教員 約470人 ●留学生 約370人

ホームページ <http://www.ubd.edu.bn/>

交流協定締結年月日：2009年11月8日 主管学部：医学部



国際交流の特色

ブルネイ・ダルサラーム大学（UBD）は、1985年に設立された総合大学である。学位取得コースは、国民及び外国人に開かれていて、政府による奨学金制度（教科書や交通機関及び宿泊費）が、ブルネイ国民に授与されている。1989年に最初の卒業生を送り出し、現在のツング・リンクのキャンパスは、1995年9月に正式にオープンした。医学部では英語での、Problem Based Learning（PBL）を主体としたチュートリアル中心の基礎教育を3年間行い、その後3-4年は英国、カナダ、オーストラリアの各大学医学部に編入し、臨床教育を受けて医師免許を取得する。2009年には大学間協定が結ばれ、さらに医学部とブルネイ国保健省との国際協力協定が結ばれた。特に医学部では、本学医学部との双方向性の学生交流が積極的に行われ、実績が積まれている。

交流実績（平成29年度～31年度）

年度	H29	H30	H31
受入・派遣			
学生の受入	15	20	20
学生の派遣	15	7	12
研究者・職員の受入	1	2	2
研究者・職員の派遣	2	8	3



教員からの声

ブルネイ国はアジアでも最も英語能力が優れ、治安が良く、政治的、経済的にも安定したイスラム教王国です。ここでの学習は、国際的な視野を持った医師の教育に適切であり、将来の香川大学との連携を中心にアジアで活躍するリーダーの育成に有用だと考えられます。

UBD医学部では英国式医学教育としてProblem-Based Learningが体験できます。2006年には医学部間協定を結び、香川大学の医学部生のための夏季医学教育コース（4-5週間）に参加開始、2019年度（13期）には6名の学生が参加しました。また同年に香川大学でのWinter ProgramにUBD医学部学生10名が参加、7名が基礎医学実習に参加し、継続的に双方向的な交流が出来ており、更には学部間から大学間協力へと交流が広がっています。

医学部教授 日下 隆

学生からの声

私はブルネイで行われた夏季プログラムに参加しました。そこで過ごした一ヶ月間は毎日が学びや刺激に溢れていました。

UBDでの学習は、私が普段受けている授業とは大きく異なっており、講義や実習の他にPBLというグループディスカッション形式の学習がありました。それに参加する学生たちはとても生き生きとしていて、一学年に学生は20人ほどですが、全員から「いい医師になるう」という気持ちを感じられました。

また、ブルネイではイスラム教が多数派ですが、その他の宗教も共存している様子でした。人々との交流を通して信仰が身近にあるという暮らしの一部を経験することができました。日本にいると自分や周りの宗教について考える機会は多くありませんが、このような経験はこれから先、自分とは異なる文化を持った方と出会い、相手を理解しようとするときに役立ってくれるのではないかと思います。

2019年のプログラムに参加してから世界の状況は大きく変わってしまいましたが、このような状況の中でも、同じ目標に向かって頑張っている仲間が遠くにもいると思えることがとても励みになりました。これから留学を考えている人にも機会があればぜひ体験して欲しいと思います。

医学科4年 宮崎温美